

「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ20号

2018年11月



ウラナミシジミ (シジミチョウ科)

目次

1. 11月の活動について 2
2. ムシプロだより 3~4
3. 自然の楽しみ方 (秋) 5~6
4. 事務局より 7
- 今月の表紙 7

1. 11月24日（土）の活動について

11月24日（土）の活動の概要です。

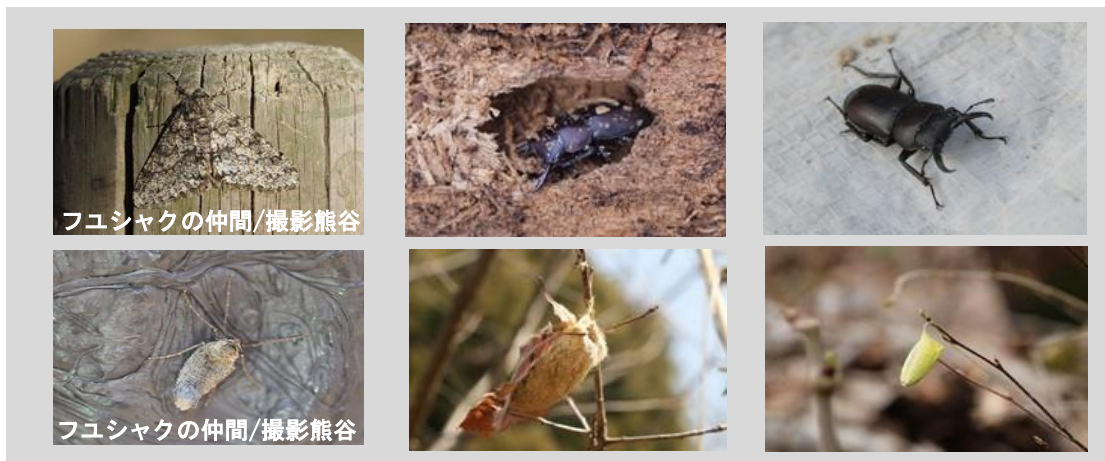
■ 冬の生き物観察

午前：コナラ広場と広葉樹再生林

午後：庄屋の雑木林

冬の雑木林で冬を越している生き物を観察します。

冬に活動する蛾の仲間のフユシャク、朽木の中で冬を越すクワガタ、カミキリムシ、スズメバチが期待できます。また、木々が葉を落としているのでヤママユやウスタビガの繭も見つけやすくなっています。



■ エコストーブで昼食づくり

くまの木で昼食をとります。昼食は、エコストーブを使って作ります。

メニューは、カレーを予定しています。コナラ広場で採れるキノコ（ヒラタケ）を料理するのも面白いですね！



2. ムシプロだより

武田 飛鷹

登下校時、道路の周辺を見ていると色々な生き物に出会います。クロカナブンやミドリシジミらしき蝶も見つけました。

2018年9月8日に撮影しました。ヤママユは朝見つけて体育祭が終わってから撮りました。

白いヤブガラシは見たことない色だったので驚きました。白色個体か何かだと思います。

アオスジハナバチは、翌日撮影。家の車庫で長い時間張り込んでようやく写りました。なかなか止まってくれない蜂を撮るのは大変でした。



あべまつ はるこ

先日、静岡県賀茂郡河津町にオープンしたカエル館のカワズーに行ってきました！とても良かったので、ぜひ活動の合間にお運びください。

カワズーで撮った写真です。



←「ウアカリヤドクガエル *Dendrobates uakarii*」というヤドクガエルの一種です。ヤドクガエルは、中南米の熱帯雨林に住む小型のカエルで、毒があり、「自分に手を出すと危ないぞ」と警告を発するためにとっても派手な模様や色をしています。先住民が狩りの際にこの毒を吹き矢に塗って使用していたことから「ヤドクガエル」という名前が付けました。



写真のウアカリヤドクガエルはアマゾンに生息していて、オレンジ、イエロー、ブラックのメタリックカラーがとてもきれいですね。毒ガエルですが、卵からオタマジャクシが孵化すると、親がオタマジャクシを背中に乗せて水場まで運ぶという子煩悩な一面もあります。

↑「ブチハラクサガエル *Hyperolius bolifambae*」というクサガエルの一種です。クサガエルは、アフリカの森林やサバンナに住む小型のカエルで、体長の20倍もの距離を跳ぶことができます。

写真のブチハラクサガエルは、カメルーン等に住んでいます。体長は2～3センチくらいで、背中はミルクチョコレートのような色ですが、お腹の水玉模様とマニキュアを塗ったような赤い指先が印象的です。こうした美しい模様は、最初の繁殖期を迎える頃に初めて現れると言われており、とってもおしゃれなカエルです。

皆様からの投稿をお待ちしております。題材は自由です。
どんどん送って下さい。お待ちしております。

3. 自然の楽しみ方（秋）

● 草むらの紳士たち：バッタを愉しむ

草むらを歩くと足元から次ぐから次へと飛びだしてくる。これが面白くて何回も繰り返した。次に飛び出した一頭に狙いを定めて、着地したところをめがけて走る。これを何回か繰り返すとバッタが疲れて飛ばなくなる。そこを素手で捕まえていた。中には、飛ぶ力の強い個体が出て10メートル近く飛ばれると諦めていた。その後、バッタ捕りの名人から「竹でできた洗濯バサミ」を黒く塗って捕る方法を教わった。

開けた草地でバッタを追いかけてバッタとのやり取りを愉しもう！

トノサマバッタ



↓これが隠れています



下の画像にトノサマバッタがいます。見つけられますか？



ショウリョウバッタ



飛ぶと音を出すことから「チキチキバッタ」「キチキチバッタ」と呼ばれる。となりのトトロでも登場してるよ！



オンブバッタ



ツチイナゴ



イナゴ

■ 捕食者たち

バッタは、周りの背景に溶け込む色・模様、強く跳ねる足、遠くへ飛べる翅を持っている。それでも捕食者たちに捕まってしまう。捕らえられたバッタを見て「自然は厳しい！」と感じる。

モズ（百舌）；捕らえた獲物を「はやにえ」にする。



撮影/熊谷義明



モズの鋭い眼光がレンズを通して突き刺さる。
モズの捕食の対象でなくて良かったと思った。



クモ：網を張って獲物がかかるのを待つ。秋は、ムシたちが活発に活動する。これに合わせたようにあちらこちらにクモが、網を張って待ち構えている。



コガネグモの網にかかったトノサマバッタ



ジョロウグモの網にかかったイナゴ

4. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2018年11月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：harukan@ac.auone-net.jp

今月の表紙

ウラナミシジミ (シジミチョウ科)



写真は、センダングサを訪れたウラナミシジミである。秋になると見かけるようになる。

特長は以下のとおり。

- ① ひげ（触角）が縞模様
- ② 翅の裏が波の模様
- ③ 後ろ翅に二つの目玉模様

※この目玉模様は、頭に見せかけて鳥などの捕食者の攻撃をそらす効果があるといわれている。

- ④ 尻尾が生えている。



私が、このチョウで一番気に入っているのが、翅の表の色が「淡い青」であることだ。グラデーションがとても良い！

この色合いが、なんとも奥ゆかしく感じるのはわたしだけだろうか？

庭の植えてある萩などの花にもよく訪れて普通に見ることができるのでじっくり観察してほしい。

(写真・文 西野 孝法)



